

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501908		
法人名	株式会社リビングプラットフォーム		
事業所名	ライブラリ美園2F		
所在地	札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3F		
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501908-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成30年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が穏やかに生活できるように、職員一同日々の介護業務に取り組んでいる。入居者様の体調不良にも迅速に対応できるように医療機関・看護師との連携が構築されている。事業所内外の研修にも力を入れ、より良いケアの実践に繋げている。地域との関係を保つため事業所として可能な限り協力し、地域の行事には積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市豊平区美園の市街地に位置し、住宅街にある3階建てビルの2階と3階にある2ユニットのグループホームである。地下鉄東豊線美園駅から徒歩圏内、近隣にはスーパーやドラッグストア、コンビニ、ファーストフード店など商店も多く、利便性のよい地区である。建物は、ペンションを転用したホームな為、その雰囲気を感じる作りでもある。法人は、札幌市を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホームや有料老人ホーム、居宅介護支援などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がい者サービス事業、保育事業など幅広く展開しているグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。当ホームの特長は、理念を「心和」としており、利用者地域との触れ合いを謳い、利用者家族、職員、地域との関係が繋がっており、リビングではいつも利用者が明るく楽しく寛いでいるホームである。AEDを設置しており、緊急時には職員が対応できるよう研修しており、地域で頼りになる認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目立つ場所に掲示し、毎日目すること意識づけしている。	理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員間では、申し送り時に唱和して、確認し、共有して実践につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示したり、申し送り時に唱和しているが、ミーティング時などに各自が振り返って、理念の共有を更に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会行事には積極的に参加している。お散歩等でご近所の方へ会った時には挨拶を交わしている。	町内会役員が運営推進会議に参加しており、定期的に意見交換等して交流している。町内会行事には積極的に参加しており、特に近隣のときわ公園での町内会のお祭りは利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々にグループホームがある事を認識してもらっており、相談や支援はその都度行っているが、当施設で対応が困難な時には他事業所へも相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催しており、ホームでのサービス内容、事故報告や苦情、問題点等を報告し、話し合いを行い様々な意見を交換しサービスの向上に努めている。	地域包括支援センター担当者や家族、町内会役員が参加して、定期的開催し、運営状況の報告や問題点についての意見交換などを行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の会議の参加や、保護課職員・包括支援センターと連絡を取りながら協力関係を築ける様に取り組んでいる。	生活保護の利用者が多い為、利用者の暮らしぶりやニーズなどを区役所保護課と情報交換したり、認定更新の機会等には介護保険課に手続きや相談するなどして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会等が中心となって、高齢者虐待防止・身体拘束廃止の内部研修会を開催して、禁止の対象となる行為を正しく理解しており、玄関やエレベーターの施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内に抑制廃止委員会を設置し2～3ヶ月に1回委員会を開催しており、指針やマニュアルを整備して、内部研修会を定期的開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を通して職員で話し合い、虐待に当てはまる行為が無い確認している。また、外部研修にも参加し、伝達講習をしながら検討防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在支援対象者はいないが、外部研修や内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する事は十分に時間をかけて説明を行っている。利用者・ご家族の不安や疑問点を尋ね丁寧な説明を心掛け、理解・納得が出来る様に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をホームの入り口に設置すると共に、運営推進会議を通じて、ご意見・ご要望を聞く機会を設けている。また、改善策も講じている。	利用者一人ひとりの生活状況も記載したホーム便りを毎月発行して、運営状況や生活状況を家族へ報告している。玄関には意見箱を設置して、意見を聞く機会を用意している。来訪した家族からは意見や要望を直接聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に管理者は職員の意見や要望を聞ける様にしており、毎月開催している合同会議・各階フロア会議では管理者の他に運営に関わる職員も出席しているので、職員の声が発言に反映できるようにしている。	フロア会議は月1回行っており、リーダー会議は月1回の予定である。他に抑制廃止委員会は2～3ヶ月に1回開催している。また、個人面談は年4回定期的に実施して、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年4回の個人面談の機会を設け、その職員の希望を汲み取り、働き易い環境となるようユニット間の移動や希望休など即時に対応できる事は対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に周知が必要な内容や、職員が自主的に関心をもった内容を題材にした内部研修を行うことで、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は札幌市や豊平区管理者連絡会の会議等に参加し、ネットワークづくりや情報交換をしている。職員は法人内外の研修会等に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族様が困っている事があれば、時間をかけて話を傾聴している。また、生活状況等の情報を伺い職員全員で情報の共有や支援について検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から本人やご家族様の要望・不安に耳を傾け、少しでも安心して生活が送れるように信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の施設・病院等を訪問し、ご本人の様子や生活環境・本人のお身体の様子や病状を把握する。入所してからもご本人との関わりの中で必要な支援は何かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、お互い助け合い暮らしを共にする家族の様な関係を築けるように努めている。また、職員主導の生活とならないよう職員間で心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、月に一度送付するご家族様宛の手紙等で日々の様子を伝えている。困難な事がある時にはご家族様と一緒に考え協力し、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けずにいつでもご家族様やご友人が来訪できるようにしている。外泊や外出・電話での連絡支援はいつでも対応できるようにしており、関係が途切れないように努めている。	お墓参りなど家族と外出や職員同行で自宅に伺ったり、地域に暮らす知人・友人等がいつでも遊びに訪れ、カラオケ店に行くなど継続的な交流ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係の把握に努め、お互いの関係が保てる様に職員が間に入り、関わり支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族様が来訪されたり、電話やお手紙で経過を伝えてくれており、常に相談に応じられる様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に寄り添う姿勢を大切にして、関わりの中で意向や希望の把握に努め、特に言葉以外の表情や仕草などをケースに記録に記載し、職員間で情報の共有を図り理解を深めている。	日々の関わりの中で声掛けし、把握に努めている。意思疎通が困難な利用者の場合は、その都度気付いたことを記録し、職員間で共有し何を望んでいるか把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や親しい方が面会に来られた際にはその都度情報収集をしており、現在の生活状況などを見ながら職員で話し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や気持ち、表情等を観察しながら把握に努めている。また、記録や申し送り等を通じて職員間で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見を反映するように現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族に思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ケアについては、担当制になっているが、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って、現状に即した介護計画を作成している。尚、見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し全職員で情報を共有している。アセスメント・モニタリングを行い3ヶ月に1度見直しを行い、状況に変化があった際には都度カンファレンスを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個々のニーズに答えられる様に努めている。本人の状態に応じてご家族様と相談し、本人に必要な事を見極めて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と本人家族の希望する医療機関と連携を取り、適切な医療を受けられる様に支援している。	かかりつけ医は、本人や家族の希望により従来通り継続できる。また、協力医療機関による往診は月2回で、本社からの看護師が週1回の訪問で24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調の変化や異変があった際には、看護師に報告・相談を行い適切に対応している。日常の健康管理・状態変化にも直ぐに対応できる様に情報の共有もやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに状態の確認を行い病院での様子や治療について情報交換を行っている。認知症の進行状態も観察を行い、小さい変化も主治医に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合どうしていくのかを、ご家族様の意向を確認している。実際に重度化した時に再度ご家族様に意向に変化が無いかを確認を行い、主治医と話し合いをして方針を決めている。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合に再度主治医と本人や家族と打ち合わせして意向を確認し、看取りの契約をして、連携して対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを整備している。看護師による急変時の研修も定期的に行っており、AEDの設置に加え使用方法の研修も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練は2ヶ月に1度定期的に行っている。災害時の対応も研修を通じて行っており地域との協力体制も築いている。	火災の避難訓練は、消防署の年1回の指導の下、2ヶ月に1回定期的に行っており、レトルトの食品や水、お粥などの備蓄と簡易ストーブ等の備品を整備して災害対策を行っている。	避難訓練は、火災時のみ2ヶ月に1回定期的に行っているが、地域の方や家族の参加協力も含めて、地震や台風などの自然災害の避難訓練も行うことを期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇のあり方は研修や日々の業務の中で学ぶ機会を設けており、職員間でも注意し合える関係を築いている。穏やかな声かけや自尊心、羞恥心に配慮した対応に努めている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内で接遇の研修会を定期的に行っており、職員間でも声掛けや電話の対応など注意しあい対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように言葉だけではなく表情や仕草も注目し自己決定できるように、その人にあった声掛けで対応し、出来る限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ある程度の生活リズムは保たれているが、毎日の生活の中からその人にあったペースを大切にして、無理のないように生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の季節や天候にあった洋服を一緒に選んで着て頂いたり、お化粧をされる方にはお化粧ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや認知状態に合わせた盛り付け・提供方法を工夫している。行事食では視覚にも楽しめるよう提供しており、配膳・下膳のお手伝いやテーブル拭き等も一緒に行えるように取り組んでいる。	食事は、メニューと食材が外部委託で、職員が調理をしている。利用者は、配膳や下膳、テーブル拭きなど職員と一緒に手伝っている。行事食は、クレープ作りやケータリングラーメン、寿司ランチセットなどで、外食は、回転寿司など楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事は記録に残し、食事が進まない時には小まめな声掛けや手工嗜好に合わせたメニューを提供している。栄養補助食品も活用してカロリーや栄養摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており仕上げ磨きは職員が行っている。歯科による口腔ケアも月2回行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で個別の排泄間隔や排泄サインを職員全員で共有・把握している。トイレ希望を表現しない方は仕草や表情から読み取りトイレ誘導を行う様に努めている。	排泄チェック表で、利用者個々の状況を職員間で共有し、表情や仕草を観察しながら声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやオリゴ糖を毎日摂取して頂き、適度に運動を取り入れて便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望を聞き楽しく入浴して頂けるように努めている。	ペンション転用の為、浴室はコンパクトなユニット型である。入浴は週2回だが、基本的に時間や曜日を決めず一人ひとりの希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせて休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表を作成して誤薬が無いようにダブルチェックを行っている。変更や臨時薬がある場合は職員間で情報共有できるようにしている。変化がある場合は主治医へ相談して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる範囲で役割を見付けてその人にあった楽しみや気分転換の支援を探している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出は困難になっているが、ご家族の支援も得ながら個別やグループでの外出支援を行い、散歩や買い物レク等でホーム外の時間の充実を目指している。	日常的に近隣の散歩や外気浴を支援している。外出行事は、買い物ついでに同行したり、紅葉狩りや豊平神社祭り、町内会のときわぎ公園祭りやお花見など個別やグループでの外出支援をしている。	外出行事を行っているが、家族と一緒に外出行事の企画を検討したりして、季節に応じた外出の計画を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は少額の現金を自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人と手紙や電話のやり取りがいつでも出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔を保ち、共有分は光の調節を行ったりエアコンを使用し温度調節を行っている。季節が認識できるように飾り付けをしたり、落ち着いた音楽を流すなど心地よい空間になるように努めている。	共用空間は、採光や風通しもよく、2階の台所が対面キッチンで、3階はリビングと台所が2階と反転した構造である。リビングや廊下には季節を感じる飾りつけなど工夫している。また、避難口のベランダもあり、災害時の避難に有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前に椅子を配置しており、気の合う同士で談話したり過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品等を持ち込んで頂いている。ご家族様の写真等を飾ったり安心して過ごせるように、本人・ご家族様と相談しながら工夫している。	居室には、クローゼットと特殊寝台が設置しており、利用者に配慮している。また、利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には写真、トイレには看板と場所が分かるように工夫している。		